

待降節第2主日 2019.12.8

イエスの序章

マタイ3章1-12節

そのころ、洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒れ野で宣べ伝え、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言った。これは預言者イザヤによってこう言われている人である。

「荒れ野で叫ぶ者の声がある。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」

ヨハネは、らくだの毛衣（けごろも）を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べ物としていた。そこで、エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。

ヨハネは、ファリサイ派やサドカイ派の人々が大勢、洗礼を受けに来たのを見て、こう言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などと思ってもみるな。言うておくが、神はこんな石からでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」

説教

ヨハネは、らくだの毛衣（けごろも）を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べ物としていた。マタイ3:4

格好といい、食べるものといい、いくら昔の人とはいえヨハネはずいぶんと変わっています。これは旧約時代の預言者のスタイルです。故事にならえてはいませんが、ヨハネと同じようなスタイルで宗教活動をおこなっていた人は同時代にも大勢いたと思います。イスラエルは西暦70年には国が消滅しますが、ヨハネが現れた当ても危険な状態にありました。ユダヤ人は宗教者に限らず政治、経済、軍事、いろいろな立場から現実の危機を乗り越えようと必死に活動していたはずです。いわばヨハネもその中の一人、ワンオブゼムです。しかし、ヨハネのユニークさは「洗礼」という儀式を実践していたことにあります。たくさんいた宗教者のなかで聖書がヨハネのことを記録しているのは「洗礼」に注目しているからでしょう。

人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。マタイ 3:6

旧約、新約の聖書を通じて洗礼ということばが記録されるのは初めてです。でもすぐにヨハネはわたしなどたいしたことはないと告げます。

わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。マタイ 3:11

優れたお方、後から来る方とはだれか？ヨハネはこの時点ではイエスのことを知りません。会ったことも見たこともなかったようです。でも「聖霊と火」の洗礼を授けるお方だと断言しています。聖書を読み進めていくとわかりますが、イエスはこのヨハネから洗礼を受けます。その一方でイエスは誰かに洗礼を授けたとは記録されていません。

現在では「洗礼」はキリスト教の入信儀礼となっています。洗礼はヨハネが始めたと記録されてイエスが洗礼したとは記録されていないのに、またヨハネの預言では「聖霊と火」の洗礼を授けるお方と書いてあるのに現在の入信儀礼の洗礼は「水」の洗礼となっています。そのうち見直される時もやって

くるでしょう。特に長い間キリスト教を禁止していた日本では「〇〇の洗礼を受けた」などという慣用句で洗礼を悪い意味として使うことがあるのでなおさらです。

さて、イエス登場のプロローグとしてヨハネは見事にその役目を務めます。イエスはパッと突然登場するのではなくヨハネの地ならしのあと現れます。聖書の物語の中ではひきたて役のヨハネですが、おおきな出来事の前にはかならずなんらかの予兆があることをわたしたちはヨハネから学ぶことができます。もし大きな変化があるとすればクリスマスをひかえた今、地上のどこかで毛衣をきたキリスト者が荒野で叫んでいるかもしれません。わたしたちは変な人がいると眉をひそめるのではなく、耳を澄ませて予兆を聞き分けましょう。
